

「ことばの教室」に揃えたい文献、備品、研修体制など

2008.5.14版

1 研修資料、文献

(1) テキスト、言語障害教育全般

- ・『きこえとことば研修テキスト』全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会発行、2006年3月
→都道府県や市町村単位で、経験のある先生が、初めて「きこえとことばの教室」を担当する先生方のための研修会用テキストとして、また、自習用として開発。
- ・『ことばの遅れのすべてがわかる本』中川 信子／監修、2006、講談社
→イラスト入りで見開きワイド、読みやすくわかりやすい。1歳半健診や3歳児健診等をきっかけに、ことばの療育、教育につながる過程がよくわかる。まさに「すべてがわかる」本。
- ・『言語障害児の指導パンフレット』親の会
→保護者向けだが、通級担当入門用としても使える。注文は「全国ことばを育む親の会北海道事務所」。
- ・『言語聴覚療法臨床マニュアル 改訂第2版』（協同医書出版社・2004・小寺富子／監修）
- ・『口蓋裂の言語臨床 第2版』岡崎恵子他編集、2005、医学書院
→口蓋裂だけでなく、広く構音障害の指導に役立つ。LDや特別支援教育など、時代に合わせた内容も含まれている。
- ・『言語聴覚療法シリーズ言語聴覚障害総論ⅠⅡ』、倉内紀子編著・山崎京子編著 2000～2001、建帛社

(2) 構音指導編

- ・『構音障害の臨床—基礎と実践マニュアル—』阿部 雅子著、2003、金原出版
→構音指導、とりわけ歪みの指導に。写真を多用し、最もわかりやすい。最新の実践。誤りやすい指導も指摘。現時点では最もお勧め。
- ・『言語聴覚療法シリーズ7 機能性構音障害』本間慎治他編著、2000、建帛社
→ 口唇口蓋裂などは、同じシリーズの『器質性構音障害』を。
- ・『だれでもできる発音・発語指導』柳生 浩著、1991、湘南出版社
→難聴児向け。サンプルの単語がたくさんあり、指導のコツがわかりやすい。
- ・『構音訓練のためのドリルブック改訂第2版』日本音声言語医学会編著、2006、協同医書出版社
→豊富な単語、文が載っており、掘り下げ検査にも、構音練習にも。なかには難しい単語や文もあるので、その子の興味関心に合わせて選んで書き写して使うのもよい。

- ・『構音の指導研修 DVD (改訂第 2 版)』 ya 作。2008。

→現職のことばの教室の先生が作った構音指導の研修ビデオ。映像や音声を使用し、本だけではわかりにくい部分がよくわかる。初めてことばの教室を担当した先生、一人教室の先生への支援をキーワードに作られた。

(3) 「言語発達遅滞」関連の文献

- ・『言語聴覚療法 言語発達障害 I II III』大貝茂編著・斉藤吉人編著・笠井新一郎編著・2000～2001・建帛社
 - ・『図説 LD 児の言語・コミュニケーション障害の理解と指導 AD/HD、高機能広汎性発達障害とどう違うか』竹田契一／著 里見恵子／著 西岡有香／著 日本文化科学社、2007 年 9 月発行
 - ・『LD 児サポートプログラム』竹田契一監修・2000・日本文化科学社
 - ・『インリアルアプローチ』竹田契一著・1994・日本文化科学社
 - ・『子どものこころとことばの育ち』中川 信子著、2003 初版、大月書店
- など、言語発達については、各分野の文献に幅広く当たる必要がある。

(4) 吃音関連の文献

- ・『学齢期の吃音指導 専門家のための手引き』CARL W. DELL, JR. 著 長澤 泰子訳・1998、大揚社

→「子どもがどもったすぐ後で、指導者が流暢または軽くどもると、軽いどもりの手本になる。」、「意図的にどもることができることを知る」など、楽にどもることによって症状の軽減を図ろうとする考え方。

- ・『シリーズ言語臨床事例集 第 9 巻 吃音』盛 由紀子他編・2004・学苑社

→吃音症状を徐々に軽いものに変えること。

①「楽にどもる」、②力を抜いて楽に話す、③苦しいどもりと楽などもりを比較させ、苦しいどもりから楽などもりに切り替える練習などなど。

- ・『言語聴覚療法シリーズ 吃音』都筑澄夫編著、2000、建帛社

→吃音についての知識が体系的にまとめられている。

(5) コミュニケーション、社会性の困難さ

- ・『ソーシャルスキルトレーニング』小貫 悟他著・2004 初版。日本文化科学社
- ・『軽度発達障害児のための SST 事例集』五十嵐一枝編著、2005、北大路書房 など。

(6) 感覚統合関連

- ・『感覚統合 Q and A』佐藤剛監修、1998、協同医書出版社
 - ・『「見る」ことは「理解する」こと』本多 和子他著、2003、山洋社
 - ・『LD 児・ADHD 児が蘇る身体運動』小林 芳文著、2001、大修館書店
- ほか、各種。

(7) ADHD に関する文献

- ・『ADHD のすべて』ラッセル・A・バークレー著、2000、VOICE

- ・『ADHD サポートガイド』森 孝一著、2002・明治図書
 - ・『LD・ADHD 特別支援マニュアル』2001、森 孝一著、明治図書
- ほか、各種。

（８）制度面、法律面

- ・『通級による指導の手引 解説とQandA改訂版』文部科学省編著、2007年1月、第一法規出版

→通級制の法律面、手続きについてなどの本家本元の本。昨年度からの「弾力化した通級制」についても詳述。

（９）特別支援教育関連

- ・『特別支援教育の理論と実践』（全3巻）

特別支援教育士資格認定協会編／上野一彦・竹田契一・下司昌一編、2007年4月刊、金剛出版

I 巻 概論・アセスメント 2,520 円（税込）

II 巻 指導 2,730 円（税込）

III 巻 特別支援教育士（S.E.N.S）の役割・実習 2,100 円（税込）

→日本 LD 学会・特別支援教育士資格認定協会の総力を結集した特別支援教育士（S.E.N.S）養成テキスト。各領域の第一線で活躍する執筆陣により、基本の理解、具体的実践の技法と指針、変化の激しい本領域における現状など、特別支援教育を実践していく上での必要な知識と情報が網羅されており、全体を概観できる3分冊となっている。

2 備品、教材など

（１）「鼻息鏡（びそくきょう）」

→「側音化構音」の呼気の方角を調べたり、「鼻からの息漏れ」を調べるには必須の道具。3,200 円ぐらい。

（２）LED ライト（ペンライト）

→お口の中を照らして、舌の運動を観察したり、口腔内の形態異常等を視診するのに使います。LED ライトは光の拡散が少なく、とても明るいので、口腔内の奥まで照らせます。電池も長持ちするため、とても使い勝手が良いです。

（３）ストロー

→ サ行音の指導の際、呼気を舌の先から出すための練習に使うことがあります。

喫茶店が出るような、一本ずつ袋に入ったストローの太さがちょうど良いです。

（４）あいうえお表、ストップウォッチ（音が鳴らないもの。音の ON、OFF できれば理想）

（５）アイスクリームのへら（舌圧子）

→舌の形を整えたり、舌を押さえたりするなどに使用。木製のは味をいやがる子がいるため、プラスチックでコーティングしたものが良い。

（６）ミルク煎餅

→なめて穴を開けたり、手を使わないで、口にくわえたまま食べたり、舌の運動の巧緻性

や、舌の深部感覚等を育てるのに。風船ガム、アメ、麦チョコなども使える。

(7)『ことばのテスト絵本』 日本文化科学社

ことばの発達や構音の就学時スクリーニング検査によく使われる。情報を受け取り、それを解釈し、他人に伝えるというコミュニケーションに必要な機能を測定。幼児から小学校低学年まで適用。

(8)「オーディオメーター」(聴力検査機器)

→「きこえ」と「ことば」との関係をとらえるためにも必須の道具。高価でも予算要望で必ず揃えたいもの。人に気づかれにくい難聴が隠れていることも。難聴の疑いが少しでもあれば必ず聴力検査を。難聴児には軽度でも定期的な検査を。きこえの問題は、様々な要因によって起こり、状態も様々。検査結果をどう解釈して良いかわからない時は、わかる先生に聞いてみることを。研修を踏まえることが大切。

(9)『PVT-R 絵画語い発達検査』(日本文化科学社、2008、手引 3,150 円、記録用紙 (30 名分) 6,300 円、図版 15,750 円) 3 歳 0 か月～12 歳 3 ヶ月。

<1991 年修正版 PVT からの主な変更点>

- PVT の語いを基本に、この間の子どもの言語環境の変化を考慮し、時代に合わなくなった語の削除や入れ替え、今の子どもたちにとって重要な語の追加を行いました。
- 適用年齢の上限をこれまでの 10 歳 11 か月から 12 歳 3 か月に引き上げるとともに、難易度の高い課題も新たに追加し、語い数を 68 語から 89 語に増やしました。
- 実施や記録がしやすいよう、提示する図版と記録用紙を別にしました。図版は提示や保管に便利なリング綴じにし、記録用紙は正確な実施に配慮しました。
- 図版の絵は、すべて描き直して子どもの注意を引きやすいように 2 色刷りからフルカラーに一新しました。(日本文化科学社 HP より)

(10)「フロスティック視知覚発達検査」日本文化科学社(手引 2,100 円、検査用紙 (20 名分) 7,875 円、採点盤(絵カード入) 2,100 円)

手先が不器用で、文字がうまく読めない、書けない、ボタンがうまくはめられないなど、視知覚や目と手の協調運動に困難さを抱えている子はいませんか。保育所、幼稚園、小学校低学年の子どもの視知覚上の問題点を発見し、適切な訓練を行うための検査です。次の 5 つの視知覚技能を測定します。

1. 視覚と運動の協応
2. 図形と素地
3. 形の恒常性
4. 空間における位置
5. 空間関係

適用範囲 4 歳 0 か月～7 歳 11 か月

所要時間 30 分～40 分

(11) WISC-III 知能検査 (2010 年に WISC-IV の日本語版の発売をめざしている)

包括的な一般知能を「言語性」、「動作性」、「全検査」の 3 種類の IQ によって正確に測定します。知的発達の状態を「個人内差」という観点から分析できます。4 つの群指数(言語理解、知覚統合、注意記憶、処理速度)により、子どもの発達の特徴をより多面的に把握できます。

5歳0カ月～16歳11カ月

所要時間 60分～70分

用具（用紙5名分入り） 126,000円

検査法（別売） 6,300円

記録用紙（20名分）ワークブック付 7,875円

→参考文献

『軽度発達障害の心理アセスメント WISC-IIIの上手な利用と事例』上野一彦／編 海津亜希子／編 服部美佳子／編 日本文化科学社 2005

『WISC-IIIアセスメント事例集 理論と実際』
藤田和弘／編著 上野一彦／編著 前川久男／編著 石隈利紀／編著 大六一志／編著
日本文化科学社 2005

（12）K-ABC 心理・教育アセスメントバッテリー

認知過程を「継次処理」と「同時処理」から評価し、得意な学習スタイルを見つけるものです。検査結果を教育・指導のプログラム作成に活用できます。131,250円。

対象年齢：2歳6ヶ月から12歳11ヶ月

実施時間：約30分（2歳6ヶ月）から約60分（6歳以上）

→参考文献『長所活用型指導で子どもが変わる』図書文化

『長所活用型指導で子どもが変わる part 2』図書文化

（13）その他、あると良い教材、検査法など

- ・ITPA
- ・DN-CAS
- ・新版 S-M 社会生活能力検査
- ・遠城寺式乳幼児分析的発達検査
- ・KIDS 乳幼児発達スケール
- ・認知・言語促進プログラム
- ・「アニメーション版心の理論課題 ver.2」
- ・「LDI—LD 判断のための調査票—」
- ・各種心理投影法 等々。

→高価なものは計画的に予算要望をすること。

「特別支援学級」（障がい児学級）から「通級指導教室」に移行した後も、予算が削減、または打ち切りにならないよう配慮が求められる。

各種教材、検査法は、研修を踏まえることが望ましい。

（14）設備

- ・新築する場合は、遮音等に配慮した施設とすること。また通級担当用の職員室、相談室、プレイルームを設けること。
- ・空き教室を活用して教室を開設するときは、指導室のスピーカーからチャイムや放送が流れないようにするなど防音、遮音に配慮すること。
- ・そのほか、文部科学省『施設整備指針』（2007年7月24日）を参照すること。